

BCC 第4回“架け橋大賞” 応募要領

1. 目的

日本では人口の高齢化に伴いがんの罹患者数は増加を続けており、がん患者の3人に1人は就労可能年齢で罹患しています。一方、医療の発展に伴いがんによる生存率は上昇しています。これらを背景として、がんを患いながら治療と就労の両立を望む患者は増加する傾向にあるものの、がんやがんの治療を受けながら就労を続けることへの社会や職場での理解はまだ十分ではなく、がん罹患後、就労継続を望みながら離職に追い込まれる人が少なくありません。また、多くの事業場においては、がん等の疾患を抱えた従業員の治療と就労の両立支援への対応に苦慮していることが明らかになっています。

このような状況に対し、労働者自身ばかりでなく、事業場、医療機関、地域の支援機関等の関係者が必要に応じ、労働者のがん治療と就労の両立を支えることの重要性が指摘されており、このような支援強化の必要性は2016年2月に厚生労働省より発表されたがん等の疾病を抱える労働者の治療と職業生活の両立支援ガイドライン（「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」）においても述べられています。

昨年は第一回めの試みとして、支援の連携という観点から、優れたペアを表彰させていただきました。このたびは、次のステップとして、がんの治療と就労の両立支援の普及に貢献できる**可能性も含めて**評価させていただき、広く“工夫”を募りたいと考えております。両立支援の良い取り組みを実施している企業や医療機関および地域の支援機関のみならず、**がん治療の支援の経験はなくても、ワークライフバランスやダイバーシティへの対策を応用できるのではないかと考えておられる企業も“貢献”への意欲と内容次第では審査の対象とさせて頂くこと**として企画いたしました。この表彰により、その取り組みを広く周知させ、社会の成熟促進を目指します。同時にがんや他の疾病に罹患した就労者やその家族、市民に治療と就労の両立問題への知識普及や啓発を図ることになります。また、本研究の更なる推進につながり、企業や社会に開かれた大学の追及につながります。そして何より、企業にとっては、そのような取り組みに力をいれていることが、社会貢献として社会から高い評価を受けることになることが予想されます。

*BCC (Bridge between Clinic & Company) : 労災疾病臨床研究事業費補助金「主治医と産業医の連携に関する有効な手法の提案に関する研究（～2016年度）」(横山班)の研究分担者(がんの両立支援)らが立ち上げた研究グループ(順天堂大学乳腺センター;齊藤光江、同大学衛生学;武藤剛、同大学公衆衛生;遠藤源樹、中央大学ビジネススクール;露木恵美子、企業執行役員;永江耕治、社労士;近藤明美、鎌倉女子大学;田口良子ら)のグループ名

2. 表彰されるメリット

BCCのホームページ等で、事業場名や取り組み内容等を社会に公表いたします。

なお、表彰される企業や医療機関および地域支援機関等の方々には、「がんと就労の両立支援への貢献という観点で良い取り組みを実施している企業や医療機関および地域支援機関」の証としてBCCのロゴマークの入った賞状と楯を授与いたします。「**がんになっても安心して働ける企業**」「**がん治療だけでなく、就労をサポートしている医療施設**」「**がん患者の就労をサポートしている支援団体**」の証となります。

BCC
Bridge between Clinic & Company



企業にとっての『架け橋大賞のメリット』は

少子高齢化で就労世代の人口が減り続け、多くの企業が人材難に悩む中、「がんになっても安心して働ける企業」の証になり、社員やこれから就職したいと考えている人たちへの大きなアピールになると考えます

医療機関にとっての『架け橋大賞のメリット』は

がんになっても働きたいと考える患者さんが増える中、「がん治療だけでなく、就労をサポートしている医療施設」の証になり、就労世代のがん患者さんへの安心につながると考えます

がん患者支援団体にとっての『架け橋大賞のメリット』は

がんになっても働きたいと考える患者さんが増える中、「がん患者の就労をサポートしている支援団体」の証になり、就労世代のがん患者さんへの安心につながると考えます

3. 応募部門

がんの治療と就労の両立支援（A 枠）や、その他がん治療と就労の両立に活用できる可能性のある取り組み（B 枠）に関し、以下の 3 部門について、良い取り組みを実施している企業や医療機関および地域支援機関を表彰いたします。

- ① 部門－企業（大規模・中小規模・零細）
- ② 部門－医療施設
- ③ 部門－両立支援団体（①②以外の組織社会保険労務士、患者支援団体、ハローワークなど行政機関など）

4. 応募要件

- ・上記 3 部門（①、②、③）に該当する企業や医療機関および地域支援機関が本企画の趣旨に賛同され、申請に同意されていること
- ・国籍は問いませんが、日本国内にも拠点がある施設や部署であること
- ・一次審査通過した場合、最終審査（2019 年 11 月 17 日）のプレゼンテーションや表彰式に参加できること（申請者と発表者は異なっても可）
- ・ヒアリングに応じられること
- ・プレスリリースで公開できる内容であること
- ・今後の活動（その後の取り組みに関するアンケートや次回の審査会参加など）にも、可能な限りご協力をいただけること

5. 応募方法

- 1) BCC ホームページより応募用紙をダウンロードして下さい

Bridge between Clinic & Company（がん医療と職場の架け橋）、URL：<https://teambcc.jp/>

- 2) 応募用紙に必要事項をご記入下さい

- 3) 記入した応募用紙を郵送にて下記へお送りください（2019 年 10 月 8 日必着）

〒113-8421 東京都文京区本郷 2-1-1

順天堂大学医学部 乳腺・内分泌外科 「BCC 第 4 回架け橋大賞」事務局 行

6. 審査方法、評価基準

- 1) 審査方法

有識者、研究者、BCCメンバー（利害関係のない委員、昨年の大賞受賞グループ）らから構成される審査委員会による審査（一次審査、最終審査）を行います。

2) 評価基準

がんの治療と就労の両立支援に関し、その取り組みを審査します。特に、『支援の目的』、『支援の方法（具体的な取り組み内容）』、『支援の結果（がん患者・がんに関与した従業員への効果）』、『支援の達成度評価』を重視して評価いたします。尚、実際がん患者の支援を経験していない場合でも、ワークライフバランスやダイバーシティ対策で職員の支援を行っていることから応募された企業は、どのように応用して行こうと考えているのかを最後に示してください。（目標、方法、評価は取り組んでいる課題に関して記述してください。）

最終審査については、一次審査終了後に改めて BCC ホームページ上に掲載いたします。

7. 結果発表

1) 一次審査

2019年10月31日（木）正午に BCC ホームページ上で発表いたします。

Bridge between Clinic & Company（がん医療と職場の架け橋）、URL：<https://teambcc.jp/>

2) 最終審査

2019年11月17日（日）に実施される BCC 第4回架け橋大賞審査会の中で、一次審査を通過した各ペアの方々に発表をしていただき、審査をして、架け橋大賞（各部門）を決定いたします。

8. 実施計画

時期	内容
2019年9月9日	BCCのホームページなどにて告知を開始
2019年9月9日	応募要領を発表（BCCのHPなどにて公開）、部門別（3部門）に募集
9月9日～10月8日	応募期間
10月中旬	一次審査（書類選考）
10月31日	表彰企業・医療機関・地域支援機関等の決定、連絡（11月17日にプレゼンテーション、あるいは上映するビデオの作成を依頼）
11月17日	一次審査で選ばれたチームの発表会、 最終審査（この間、昨年表彰されたグループの有志と BCC メンバーによるその活動内容の発表）、 最終審査結果発表、講評と表彰式

9. 注意・確認事項

一次審査結果を BCC のホームページで、最終審査結果は BCC のホームページおよび共催機関の団体内広報、プレスリリース等にて発表させていただく予定です。応募用紙に必要事項（を審査されるという観点からのみならず、公表されてもよい名称や内容で）をお書き下さい。

10. お問い合わせ先

〒113-8421 東京都文京区本郷 2-1-1 順天堂大学医学部 乳腺・内分泌外科

「BCC 第4回シンポジウム 架け橋大賞」事務局 E-mail：teambcc@juntendo.ac.jp